

平成 16 年度

第 8 号

SEUシニアクラブ会報

自 立
相互扶助
社会貢献

事務局:長野県諏訪市大和 3-3-5 セイコーエプソン労働組合内 TEL:0266-52-0714 Email:seu_scnt@moon.odn.ne.jp

6 月の土曜さろんお知らせ

開催日 6月26日**今月の企画行事は「万華鏡」です
後半は「介護用ウエス」作りにご協力ください**

今月の土曜さろんはアンコールにお応えし、武川育児さんを講師に迎えて、「万華鏡」の製作を企画しました。

後半は、前回予定しながら時間の関係で延期になった福祉施設（西山の里）へ贈呈する介護用ウエス作りです。

綿の布地を 20 センチ四方に裁断する作業です。

福祉施設では、これらを毎日大量に消費するため、各種団体や個人からの寄贈を期待しており、SEUシニアクラブとしてささやかな社会貢献ながら協力したいと計画したものです。会

員各位のご参加をお願いします。

記

- 1、日 時 平成 16 年 6 月 26 日（土）
13:00— 万華鏡の製作
14:00— ウエス作り
- 2、会場 ゆうむ 25 102 号室
(作業は天候が良い場合中庭です)
- 3、持ち物 ハサミ



**「津田やたろう」
を支援しよう！**

7 月に施行される参議院議員選挙に、JAM 組織内候補(副会長)「津田やたろう」を比例代表として、現役セイコーエプソン労組が取り組んでいます。

SEU シニアクラブとしては、過日宮崎会長名で支援要請をいたしました。会員の皆さんの更なる取り組みをお願いいたします。(茅野市在住)

第 5 回土曜さろん(5 月例会報告)

**自分の心をみつめてみよう
心のカウンセリングを実施**

第 5 回「土曜さろん」を 5 月 22 日開催し、参加者 20 名が「自分の心をみつめよう」と題し、心のカウンセリングの必要性について研修を深めました。

当日は、当クラブ会員の濱幸男さんを講師にお招きし、実例を挙げながら出席者の「直接参加型」方式で行われました。

濱さんは、心理相談会役員、日本精神衛生学会員、メンタルヘルスアドバイザーとして各方面で活躍されており、その豊富な経験に裏打ちされた内容は非常に参考になりました。

特に人は誰でも、悩み、苦しみを抱えています。思いやりの心、人の心を知る、そして、完璧を目指すことなく心の待避所を持つ、安心して話せる人と場所を持つ、異常を感じたら我慢しない大切さを感じることができました。

**事務局連絡事項を電子メールで配信
会報をテスト配信しました！**

会報などをお願いをしてきましたが、今までに約 60 名の会員の皆さんに、登録をいただきました。引き続き未登録の方のご協力をお願いします。

【事務局から】ロサンゼルス在住の「河合将介」さんが、我がシニアクラブに入会されました。そこで、河合さんの近況報告と、河合さんが定期的に発信している「ロサンゼルス便り」をご紹介します。

ロサンゼルス便り (5)

『日本人は米国人の自己主張に疲れ、 米国人は日本人の寡黙に苛立つ』

例外も勿論多いですが、一般に米国人ってホントに自己主張が上手です。米国人の自己主張好きに関しては、その文化的・歴史的背景について色々な解説書が説明してくれていますが、やはり子供の頃の躾（しつけ）と教育による部分が大きいのではないのでしょうか。



日本生まれの日本人である私自身、子供の頃を振り返ってみるに、親や学校の先生には絶対服従で、口答えなどとてもないことでした。その同じ頃、米国の家庭・学校では、多分「自己主張も出来ないでどうするの!」という躾（しつけ）と教育がおこなわれていたでしょうから、今日になって私が米国人相手に下手な英語をひっさげて頑張ってみても苦戦の連続です。

私自身は「謙譲の精神」こそ人類究極の美德であると信じてやまない一人ですが、でもやはり米国では「沈黙は金」だけではだ

めで、時には「沈黙は禁（禁止）」が必要のようです。

言うべきことははっきりと言う——これがコミュニケーションの第一歩であり、特に異文化交流の原点なのでしょう。

米国のようなところでは、自分の考えをはっきり言わないと理解してもらえません。（だからと言って、無理にイエス、ノーを都度言う必要はなく、日本はファジー文化なのだから意見がファジーでも構わないとは思っています。その代り、「ファジーです」とははっきり相手に伝えることは重要なのです）

異文化交流といえば、普通は外国人との交流を思い浮かべますが、何も外国ばかりが異文化とは限りません。現に私など、同世代の外国人を相手にするより、世代の離れた日本人とのカルチャーギャップのほうが 余程ショックは大きく感じます。

異文化交流の最小単位は、夫婦の関係だとよく言われます。男と女という異文化に加え、もともとは、お互いどこの馬の骨とも知らない同志が、なんの因果か共同生活をするのですから、大変な異文化交流です。

我が家の居間で、私がこの小文をパソコン相手に作成しているところを覗いた私の妻曰く、「その題名にある『日本人』、『米国人』をそれぞれ『亭主』、『女房』に置き換えてみたら・・・」そこで、素直なわたしは、言われた通りにしてみました。—『亭主は女房の自己主張に疲れ、女房は亭主の寡黙に苛立つ』—あゝ・納得。

「河合将介」さんの近況報告

私は1969年から8年間シンガポール、そして1985年から12年間米国（ロサンゼルス）と会社生活の多くの年月を海外駐在員として過ごしました。

6年半前の1997年8月に定年を迎えてからも、妻と二人でそのまま米国に残り、地域のボランティア活動などのほか、地元の日本語新聞や仲間内のウェブサイトなどに南カリフォルニアの観光スポットを紹介したり、各種コメントをし執筆しています。現役時代よりも忙しい思いをしながら セカンドライフを存分に楽しんでいます。

最近、私たちのように海外駐在員が定年他で引退し、そのまま海外に残って引退生活をする人が目立つようになりました。

先日、私の日本人の友人（ビジネスコンサルタント）の依頼で「米国駐在員のリタイア後の生活設計」というテーマのセミナーで私が講師を引きうけました。「引退後の米国生活」に関心を持っている日本人駐在員が大勢いるのに私の方がびっくりしました。

これからは日本の皆さんと各種情報交換をさせていただけたらと希望いたします。今後ともよろしく願いいたします。なお、私のEメール・アドレスは skawai@earthlink.net です。